

〔文学篇〕

【翻訳】

ベルトルト・フォン・レーゲンスブルクの第十番目の説教 『天使とキリスト教徒の十の合唱隊について』

萩野 歳平

Die zehnte Predigt Bertolds von Regensburg: „Von zehen kœren der engele unde der kristenheit“

Kurahei OGINO

要旨

Die deutschen Predigten des Franziskaners Berthold von Regensburg (1210–1272) sind ein bedeutendes Zeugnis der Volkspredigt des 13. Jahrhunderts. Unter Bertolds Namen sind sowohl lateinische als auch deutsche Predigten überliefert. Seine deutschen Predigten sind aber nicht authentisch, sondern Bearbeitungen der lateinischen Fassungen, von fremder Hand zu „Lesepredigt“ redigiert. Dabei geht es Bertold immer wieder um das Heil der Seele und um die verderblichen Folgen der Sünde, die zum ewigen Tod führen. Hier handelt es sich um eine japanische Übersetzung von Bertolds zehnter Predigt „Von zehen kœren der engele unde der kristenheit“, die die Erhaltung der gottgewollten Stände- bzw. Rechtsordnung sowie das Festhalten der Berufsethik thematisiert.

キーワード：ベルトルト・フォン・レーゲンスブルク (Bertold von Regensburg)、ドイツ語説教 (deutsche Predigten)、民衆説教 (Volkspredigt)、天使の位階 (Chor der Engel)

【解説】

ドイツ中世を代表する民衆説教師ベルトルト・フォン・レーゲンスブルクは、Banta (2001) によると、1210年頃どうやらレーゲンスブルクに生まれ、1272年やはり同地に没したとされる。彼は何よりも民衆説教を重視したフランシスコ会の説教師として、ドイツ語圏の南部を中心に各地で精力的に説教を行った。すなわち、アウクスブルク (1240年) を皮切りに、レーゲンスブルクのニーダーミュンスター女子修道院 (1246年)、ニーダーバイエルン (1253年)、シュパイアー (1255年) へ赴き、同年さらに、アルザスのコルマル、コンスタンツ、スイス (チューリヒ、ヴィンタートゥーア、ツーク、トゥーン) と巡り、その後はオーストリアのシュタイアーマルクにまで足を伸ばしている。彼の説教の旅は、その後、フランス、ハンガリーにまで及び、その中には、1263年に法王ウルバヌス4世の命により異端撲滅の目的で行われた十字軍説教の旅も含まれていた。

カリスマ説教師ベルトルトの人気は絶大で、後世の年代記作家によってその数はまちまちではあるが、6万人、ときには20万人もの聴衆が集まったと言われる。それは、例えば、1447年のウィーン写本に描かれた挿絵からも見て取れる (図1)。その絵は、聴衆のあまりの多さに、教会内よりも屋外



図1 「説教壇に立つベルトルト」
(Österreichische Nationalbibliothek, Cod. 2829, fol. 1v, 1447)

で説教することを好んだベルトルトの生き生きとした姿を描きだして、彼が立つ説教壇の前には、大勢の聴衆が詰めかけているのがわかる。説教する時に彼は、そのつど風向きを調べ、彼の声がよく通ると聴衆を風下に座らせたという。さらにベルトルトは、民衆説教者としてのみならず、伝承によると、修道院内でもめごとや、教会と世俗の権力者間の紛争解決に尽力するなど、人々から高い敬愛を受けていた。

ところで、ベルトルトの現存する説教集には、ラテン語版と中高ドイツ語版の2種類がある。前者は、ラテン語を解する聖職者や修道士向けのもの、後者は、ラテン語を解しない俗人相手のものである。ラテン語版には5種類の写本があり、そのうちの3種類が彼の手になるものとされる。これは、ベルトルトという有能な説教師が、自らの説教を他の説教師たちの模範となるべく著した聖職者筆録である。一方、ドイツ語説教集は、主要な8種類の写本により71の説教が伝えられているが、現在のベルトルト研究（例えばRöcke

(1983)、Banta (2001) では、これらは彼の声をそのまま伝えるものでも、また彼自身の手になるものでもなく、ラテン語版を下敷きにして（フランシスコ会に属する）第三者によって編集された「読む説教」(Lesepredigt) あるいは「説教形式による（信仰）手引書」(Traktat in Predigtform) とされている。このようにベルトルトのドイツ語資料は、直接の説教筆録ではないにせよ、説教で用いられた平易な話し言葉を模したものであり、そこから当時の話し言葉のある程度うかがい知ることが可能である。

さて、今回訳出した第十番目の説教『天使とキリスト教徒の十の合唱隊について』において、ベルトルトは、嘘と貪欲がはびこるこの世の中を、キリスト教徒がいかに生きぬくならば、地獄に墮ちることなく、永遠の至福を手に入れることができるのかについて、つまり魂の救済の方法について熱弁をふるう。

まずベルトルトは、地上の身分・職種を天上の天使の階級と同じであるとみなし、人間の身分制度・社会秩序を正当化する。天使には神が定めた九つの階級があり、それは kôr (Chor) つまり「合唱隊」と呼ばれている。カトリック教会では、神の玉座を取り囲む天使は、その位階（階級）に応じて合唱隊を構成し、神の栄光を賛美する合唱を歌い続けているとされるため、上位から下位までの天使の各位階および各天使群は、「合唱隊」を表わす kôr で呼ばれる。このような天上位階論は、Röcke (1983: 202、注4) によると、偽ディオニュシオス・アレオパギタ（5世紀ごろのシリアの神学者とされる）にさかのぼると考えられ、そこからスコラ哲学の天上論・教会論・社会論に大きな影響を与えたとされる。なお通例天使は、九隊からなるのに対し、ベルトルトにおいて十隊となっているのは、第十番目の合唱隊として、墮天使がつけ加えられているためである。

ところで、これらの天上での九つの階級に相応して、地上にも神が定めた九つの階級・身分・職種

がある。低い階級の天使が高い階級の天使に仕えるように、人間界においても、下位の六身分は上位の三身分に服従し、仕えなければならない一方、そのような下位の身分の奉仕に対して、上位の身分はそれに報いる責務を負っている。地上の上位三階級とは、1) 法王を頂点とする聖職者、2) 修道士、3) 法官、王侯、騎士である。上位階級は、下位階級を守る義務があるが、それは聖職者と修道士は魂を、世俗の支配者・騎士階級は生命と財産を守る、という意味においてである。

それに続く六つの階級は、以下のような六職種からなる。なお、これらの職業集団間では、上下関係や貴賤の区別はない：1) 仕立て屋、靴職人、2) 鉄製の道具で仕事をする人（宝石職人・貨幣製造者・鍛冶屋・大工・石工）、3) 商人、4) 食料品や飲み物を扱う小売商、5) 農民、6) 医者。なお、ベルトルトは、第十階級として道化・楽師をあげている。これは天上の第十階級の悪魔・墮天使に対応するものだが、彼らは、その欺瞞的生活のゆえに、キリスト教徒の世界から転落しているため、魂が救われることは決してないと断じる。

以上、天上と地上の位階の対応関係をまとめると、表1のようになる。

		天上の位階	地上の位階・階級・職業
上位	1	熾天使（セラフィム）	聖職者
	2	智天使（ケルビム）	修道士
	3	座天使（王座）	法官、王侯、騎士
下位	4	主天使（主権）	仕立て屋・靴職人
	5	力天使（勢力）	鍛冶屋・大工・石工など
	6	能天使（権威）	商人
	7	権天使（支配）	食料品・飲み物を商う小売商
	8	大天使	農民
	9	天使	医者
背反者	10	墮天使・ルシフェル	道化・楽師

表1 天上と地上の位階の対応関係

地上におけるこれらの位階・職業は、すべて神が定めたものであり、序列間の服従と奉仕を遵守することによってのみ、あるべき社会秩序が維持されるのである。しかし、ベルトルトの目に映るのは、貪欲（gitikeit）をはじめとして、嘘、不正、詐欺など数多くの悪徳が蔓延する、神の秩序がないがしろにされた世のありようであり、それに対して彼は、民衆に向って、そのような悪行をただちにやめて悔い改めをしなければ、自らも背反者（aptrünnic）となり、必ずや墮天使が待つ地獄に墮ちることになるぞ、と激しい口調で警告する。彼は、特に商人階級、とりわけ強欲な者や、金持ちに対しては辛らつな批判を浴びせるが、それは13世紀に始まる貨幣経済の飛躍的發展による商人階級の台頭を背景として生じた問題、すなわち、地上の富の追求と魂の救済との関係をどのように解決すべきか、というジレンマに直面していたからである。なぜなら、「金持ちが天国に入るのは、らくだが針の穴を通るより難しい」（『マタイによる福音書』19：23）と言われるからだ。それに対してベルトルトは、

それが、神から定められた使命に基づいて行われる正当な商業行為であって、それによって得られる正当な利益である限り、神の恩寵にあずかる妨げにはならないとした。つまり、ベルトルトにとってなによりも肝心なのは、不誠実 (untriuwe) の罪を犯さないことであった。

なお今回の翻訳の定本には、Pfeiffer (1965) 版を用い、Röcke (1983) による現代ドイツ語訳および訳注を参考にした。また訳文では、読みやすさに配慮して、適宜段落分けを行った。

最後になったが本翻訳は、長年続けているドイツ語輪読会での訳読作業の成果の一部であることを記し、ここに、そのメンバーとして熱心に参加していただいた吉田李佳、岩佐銘江の両氏に改めて感謝申しあげる。

【訳】

「天国は、宝が隠されている畑と同じである。それをある人が見つけたが、彼はそれを手に入れるために、自分の全財産を売り払ってでも、その畑を買うのである。それほどまで彼はその宝が欲しいのである」『マタイによる福音書』13:44。さて、天国と同じとされる畑とは誰のことを指すのか。さらにまたその畑に隠されているという宝とは誰のことを指すのか。そして、その宝を手に入れるために、全財産を売り払ってまでその畑を買おうとするその人は、はたして誰のことをいうのであろうか。

天国と同じとされる畑とは、すなわち聖なるキリスト教徒のことである。というのも、キリスト教徒は、『聖書』のここかしこで、「畑」と呼ばれているからである¹。そのため天国は聖なるキリスト教徒のことである。ただし、キリスト教徒以外は誰一人として天国に昇ることはできない。つまり、ユダヤ人や異教徒からはいかなる道も天国へは通じていないのである。

では、宝とは誰のことを指すのであろうか。それは心清き人の魂のことである。心清き人の魂は、人間の子どもがその父親に似ているよりも、全能なる父にもっと似ているのである。そのため、われらの主は、すべての財産を売り払ってまでその畑を買い、隠された宝を手に入れようとされたのである。さあ、よく聞かすよ、心清きキリスト教徒たちよ。あなたがたのことを全能なる神がどれほど愛しておられたかということ。そしてそのためにこそ、あなたがたも心を尽くして神を愛さねばならないのである。なぜなら神は、あなたがたをこの上なく愛してくださったからである。さあ、よく知るがよい。神がいかに愛してくださったかを。というのも神は、汚れなきお命とひきかえに、われわれを買い戻してくださっただけでは満足されずに、われわれのために十字架上でひどい苦しみを耐え忍ばれ、それによってさらに心やさしき愛をお示しになられたからである。これこそは、およそ人が聞いた中で最も大きな慈悲、最も大きな愛というものである。だが神はこれでも満足されずに、われわれに自らのお名前をお与えくださった。つまり、神はイエス・キリストという名のお方で、そのお方が天国を畑にたとえられたため、その畑は、今や聖なるキリスト教徒と呼ばれることとなり、われわれキリスト教徒は、そのお方にちなんでキリスト者という名前を頂戴したからである。さあ、心清きキリスト教徒たちよ、全能なる神を愛しなさい。そして、全能なる神があなたがたをいかに愛してくださったかを知るがよい。だが神はこれにも満足されずに、われわれをもっと愛してくださったのである。なぜなら神は、さらに、聖なるキリスト教徒の住む世界を、喜びに満ち溢れた天国と同じにしてくださったからである。

さて天国は、聖なる天使の十の合唱隊によって美しく飾られ、賛美されている。合唱隊のうちのある者は、他の者よりも美しく、上位にある。神は、下位の合唱隊を、多くの点において、上位の合唱隊に服従するように序列された。そのため上位の合唱隊は、下位のそれらに対して、多くの点で、自分たちに対してなされる奉仕に報いる責務がある。ところで、全能の神は、キリスト教徒の住む世界を天国と同じにされ、地上の聖なるキリスト教徒たちを十階級に序列された。つまり彼らの内のある者は、他の者よりも上位にある。一方、下位の者は上位の者に服従し、仕えねばならない。そのため、上位の者は下位の者に対して、多くの点で、その奉仕に報いる責務がある。それはちょうど、上位の天使が下位の天使に、多くの点で、その奉仕に報いる責務があるのと同じことである。聖なる天使たちの最上位の合唱隊は三つである。そしてその三つの合唱隊に、残りの七つ合唱隊のいずれもがつねに、多くの点で、服従しなければならない。そのため、最上位の三つの合唱隊は、七つの合唱隊のいずれにも、その奉仕に報いる責務があるのである。

天国で、下位の合唱隊が上位の合唱隊にどんな奉仕を義務づけられているのかは、われわれ地上の人間には関わりのないことである。また、最上位の合唱隊が下位の合唱隊に対してどんな責務があるのかも、われわれのあずかり知るところではない。それゆえわたくしは、あなたがたキリスト教徒に、全能なる神がどのようにして聖なるキリスト教徒を十階級に序列されたのかについて、また、下位の者が上位の者に対してどのように服従し、どのような奉仕をする責務があるのかについて話すことにしよう。わたくしがあなたがたキリスト教徒にそれについて話そうとするわけは、それによって、全能なる神がわれわれをどれほど親身になって愛してくださったかを、よりよく知ってもらうためであり、そしてそれにより、心の中で神をこれまで以上にいとしく敬い、何にもまして愛するようになってほしいからである。というのも、神はあなたがたを何にもまして愛してくださったからである。天使をどれほど美しく、どれほど清らかなものに創造されたとしても、神は天使のためにいかなる苦しみも耐え忍ばれたことはなかった。それにひきかえ神は、われわれキリスト教徒のためにその何百倍もの苦しみを耐え忍ばれたのであり、それは、神がわれわれを、アダムとイヴが楽園で犯した不服従のためにそこへ投げ込まれた悪魔の支配から取り戻すためであった。だがしかし、すでに述べたように、全能なる神が天国を聖なる天使の十の合唱隊によって序列されたとき、聖なる天使の居場所がそれで定まったというわけではなかった。なぜなら、彼らとて天国から追放されることも十分にありえたからである。そのため幾人かの者は、全能なる神に背き、今日でも背いたままであり、彼らは皆悪魔となり、今日でも悪魔のままなのである。しかも、ルシフェル²とともに天国から地獄に墮ちたのは、一つの合唱隊だけというわけではなかった。十の合唱隊すべてから、すなわち各合唱隊から少しずつ、上位からも、下位からも、そして中位からも墮ちたのである。すべての合唱隊から、それぞれの合唱隊にしかるべき数だけ墮ちたので、十の合唱隊から十分の一が墮ちたのである。そのようにして天国は序列され、そしてその後ただちに、残りの天使たちには神によって居場所が定められ、もはや天国から追放される心配はなくなったのである。このように全能の神は天使に報いたのであるが、それは、彼らが神のもとに留まり、神に背くことをしなかったからであった。

全能なる神は、天国と等しく聖なるキリスト教徒を序列された。つまり、悪しき天使たちに従わず、神のもとにとどまり、神に背かぬ者に、神は、その者がこの世を去るときに、天国にその居場所を定めてくださるのであり、そこで永遠に幸せに生きることができるのである。わたくしはまず、聖なるキリスト教徒が序列されている十の階級とはどのような人々のことなのかについて語り、その後、

上位の者に服従せねばならない下位の者が行うべき奉仕とはどのようなものであるのか、また反対に、上位の者は、下位の者が行うそのような奉仕に対して、どのように報いる責務があるのか、について語ることにする。

まず、最初の三つの階級とは、最上身分で最も高貴な人々のことである。彼らは神自らが選ばれ、序列されたのであるが、それは、他の七つの階級の者たちすべてが彼らに服従し、仕えるためである。すなわち、第一階級は、聖職者のことで、キリスト教徒を教え導かねばならない。第二階級は、修道士、そして第三階級は、世俗の法官、王、騎士たちのことであり、寡婦や孤児を守ることをその使命とする。第三ならびに第一階級は、キリスト教徒を守らねばならないが、それはそれぞれその肉体と魂においてである。

第一階級は、法王とすべての聖職者である。彼らは教会法と裁判、教会の教え、告解、説教ならびにその他の良き教えでキリスト教徒を守り、養い育てねばならない。

全能なる神がそのように序列されたのは、われわれがキリスト教徒の世界に迎え入れられるとき、まずは彼らがわれわれに聖なる洗礼を施すからである。また全能なる神は、彼らに七つの秘跡をお任せになった。これはキリスト教徒を神聖なる者として世に送り出すためのものである。つまり、この世に生まれ、暮らし、この世を去るときになされる秘跡、すなわち聖なる洗礼、聖なる婚姻、聖なる堅信、聖なる告解、聖体拝領、聖なる塗油ならびに叙階のことであるが、それによって聖職者は、キリスト教徒を不信心から守ることができるし、また守らねばならないのである。われわれが生まれるときに、彼らがわれわれを守るのは洗礼と聖なる香油によってであり、この世を生きている間は、不信心、姦通、不正な裁判から守ることがその使命なのである。なぜなら、世俗の王侯やその他世俗の法官が正しい裁判を行おうとしない、あるいは行おうとしなかった場合には、教会諸侯たちはそれらの不正を正し、正しい裁判が行われるように仕向けねばならないからである。そしてまた、教会諸侯自身も、権限の範囲内で正しい裁判を心がけねばならない。神はあの高価な宝を守り、保護する義務を彼らにゆだねられたからである。その宝とは、神自らが痛ましき死と受難という高価な代償を払って買い戻したものの、つまりキリスト教徒の魂のことであるが、これを神は大いなる犠牲とひきかえにあなたがた聖職者にお任せになられたのである。それゆえ、高貴な方々よ、天国が好ましいものであるのなら、よく聞くがよい。人の魂を保護する使命を与えられたすべての者は、神が魂をあなたがたにゆだねられ、それを守るための階級にあなたがたを序列されたその御心にかなうように、人の魂を守らねばならない。というのも、それゆえに神は、エレミアに次のように言われたからである。「わたしはあなたを諸国民の預言者として立てた」[『エレミア書』 1 : 4]。そうせぬ場合は、あなたがたは全能なる神に背いて、(紛れもなく歓びに満ちた天国と同じである) 聖なるキリスト教徒の世界から墮ちることになるのだ。そのような者たちを神は墮天使のもとに投げ込むからである。そのときには、悔い改めを行う機会は永遠に奪われている。というのも、地上における天国、それはキリスト教徒のことだが、神は、そこで御自身に背いた者を地獄の墮天使のもとに投げ込むからである。

第二階級の人々、つまり全能なる神が聖なるキリスト教徒の中で、他の二つの階級と並ぶ最上位に序列されたのは、修道士たちである。彼らは、その職務が委任され、その権限が及ぶ範囲において、人々を導き、教え、良き模範を示さねばならない。すなわち、敬虔な生活、忍耐、慈悲の心、清らかな生活、敬虔さ、断食をはじめとするすべての良き事柄や、また朝晩神の名を唱えることや読書、朗誦や祈りなどによってである。彼らがこれらのことをすべきであるのは、全能なる神とその聖母を称

え敬うためであり、すべての天使の軍勢とすべてのキリスト教徒の救いと至福、ならびにすべての信心深き魂の慰めと救いのためなのである。天国の方々は、自らに賞賛と尊敬以上のことを求めることはないので、われわれは、神が示された恩寵のゆえに神と聖母を常に称え、尊敬しなければならない。なぜなら、神はわれわれを創造され、永遠の死から救い出して自由の身としてくださったからである。さらにまた、神ご自身がそのものであるところの大いなる栄光と喜びに導くために、われわれをこれまでずっと創造され、選んでくださったからである。そのために修道士は、神と聖母と天使の軍勢を常に称えねばならない。さらに、この世に暮らすキリスト教徒たちの至福と救いを願い、信徒たちが正しい信仰と正しい行いから足を踏み外すことのないようお見守りください、と神に祈らねばならない。そして、仮にそれら二つのことで罪を犯した人がいたとしても、神がその人の魂の救いをお見守りくださり、神の恩寵にあずかることができるように願わねばならないのである。このように現世のキリスト教徒にとって、修道士たちが神にそのことを願い祈ることは、欠かすことのできないことである。一方、煉獄にいるキリスト教徒の魂にとって、この世の信徒たちが、神が彼らの苦しみと大きな苦痛を哀れんでくださるよう、修道士たちに慰めと助けを願うことは肝要なことなのである。というのも、煉獄の苦しみは悲惨で恐ろしいものだからである。それゆえ神は、修道士たちを聖なるキリスト教徒の中のしかるべき地位に序列されたのであり、修道院会則が命じるとおりに、神に尽くさねばならない。それを守らない者は、墮天使と同じ道をたどることになる。「罪は俗人界にも宗教界にも忍び寄る」。それは悪魔の化身そのものである。

第三階級の人々、すなわち最上位に属し、聖なるキリスト教徒において第三番目の階級に位置する人々にも、下位の人々が行う奉仕に対して慈悲と善意で報いる責務がある。先ほどわたくしは、あなたがたに、聖職者と修道士が下位の者たちに対しどんな責務があるのかを話したが、今から皇帝、国王、公爵、男爵、伯爵、そしてまた騎士、あるいは領主と呼ばれるすべての世俗の支配者たちが、またわれらの主なる神がこの地上で裁判権や支配権を付与し、その職務を委任したすべての人々が、下位の者たちに対してどのような責務を果たさねばならないかについて話すこととしよう。というのも彼らは、三つの最上位の階級の一つに属し、全能なる神が他の七つの階級の人々を服従させ、仕えるようにされたからである。それゆえ、人の上に立つあなたがたは、これら神の子らを、泥棒、盗賊、放火魔、ユダヤ人、異教徒、異端者、偽証者、そして不正な権力者たちから守る責務があるのである。身分の高い者も低い者も、聖職者も修道士も、寡婦も孤児も、未婚者も既婚者も、すべての者があなたがたにゆだねられているのである。なぜならば、そのために神は大いなる名声と財産、快適な生活を与えられたのであり、それは神のためにその大切な宝を、権限の及ぶ限りにおいて、また神がそう定められた限りにおいて、守り保護するためだからである。快適な生活とは、チェス、鷹狩り、気晴らしや余興のことである。[だが『三つの壁についての説教』にはこう述べられている：「しかしながらあなたがたは、教会に寄進し、教会を守るよりは、むしろ反対に教会の財産を略奪している」]³。あなたがたは修道士に喜捨をし、寡婦や孤児たちを守り、また施しをせねばならない。さもなくば、聖なるキリスト教徒の背反者となり、墮天使のもとに投げ込まれることになるであろう。

さあ、よく聞かすよい、下位階級の者たちよ。あなたがたの奉仕について、これら三つの上位階級の人々は、あなたがたに報いる責務があるのだが、それゆえにあなたがたも、服従にふさわしい誠実な奉仕を心がけねばならない。なぜならば、聖なるキリスト教徒は、その三つの階級のどれ一つも欠くことができないからである。このようにして神は、清らかなキリスト教徒の魂という宝が、昔も今

も、神にとっていかに大切であるのかをお示しになられたのである。そしてそれゆえに、神はキリスト教徒を聡明な仕方と序列されたのである。

さて、これからあなたがたに、聖なるキリスト教徒のそれ以外の合唱隊について話すことにしたい。それは本来あと七つあるはずであったのだが、それが今や六つしかないのである。つまり、最初の三つと六つで九つしかないのである。それというのも、天上の天使の第十番目の合唱隊が背反し、すべて悪魔になったのとちょうど同じときに、聖なるキリスト教徒の第十番目の合唱隊もことごとく背反し、悪魔の仲間入りをしたからである。そこはいかなる救いも届かない場所である。彼らはわれわれのところから墮ち、われわれと何の関わりもなくなった。ここにお集まりのそれ以外の六つの合唱隊の方々、あなたがたは、背反者となることがないように、自分の務めを誠実に果たさねばならない。なぜならば、あなたがたは、永遠の責め苦のなかにいる悪魔の仲間となるにはあまりに価値ある存在だからである。それゆえに全能なる神は、聖なるキリスト教徒を、そのいずれもがいなくてはならない六つの階級に序列したのである。しかも神は、その務めを人が望むようにはではなく、神が望まれるままに序列されたのである。神がもしそのように創造されたのであれば、そこのあなた、あなたは騎士にも領主にも、あるいは靴職人にも織工にも、あるいはまた農夫にもなれたであります。

第一番目の人々⁴は、人々が必要とするのであれば、どんな服であろうともそれを仕立てるすべての人たちのことである。これらの人々は、皆一つの職務に属し、絹の、羊毛の、木綿のあるいは皮の服を仕立てたり、靴、手袋、ベルトの他、服の一部とみなされる製品なら何でも作るのである。彼らは一つの合唱隊に属し、いなくてはならない人々であり、誰に対してもその職務を誠実に果たすべきである。それが聖職者であろうと平信徒であろうと、修道士であろうとそうでなかろうと、王であろうと封臣であろうと、騎士であろうと小姓であろうと、貧乏人であろうと金持ちであろうと、農民であろうと商人であろうと。あなたがたが、最上位の三つの合唱隊に対して義務をもって果たすべき奉仕とは、自らの職務を通して彼らに仕えることである。なぜならば、最上位の人々は、そのような人々の職務なしには生きていけぬからである。つまり絹にせよ、羊毛にせよ、木綿あるいは皮にせよ、上位の人々には服が、さらに靴やそれ以外にも、あれやこれやのものが入用だからである。あなたがたは最上位の人々に奉仕せねばならないが、そのときには誠実に服を仕立てることが肝心である。

例えば、生地を半分ごまかすといった不正をしてはならないし、木綿に毛を混ぜたり、木綿を薄く延ばしたりしてもならない。せっかく上等な布地を持っていても、それを無理やり伸ばしてもっと長くしようとしたりすれば、上等な布地を台無しにし、つまらぬぼろきれ同然にしているのである。だが、布を二エレや三エレ⁵分無理やり引き伸ばすなどせずに、それ相応の高値で売るというのであれば、誠実さを守ったうえに、人々の役にもたつことになるのである。だがあなたはそうはせずに、上等な布地を台無しにしている。そこには四重の不誠実さ⁶が認められる。わずかばかりの利益のために、布や皮やそれ以外のものを台無しにするあなた、あなたは不誠実な詐欺師である。そのせいであなたは背反者となり、聖なるキリスト教徒の社会にとどまることができなくなる。そして地獄に墮ちた悪魔のもとに投げ込まれ、救われることは二度とないであろう。そして上位の合唱隊は、あなたを詐欺のゆえに抹殺するであろう。なぜならば、彼ら、すなわち世俗の法官たちは、あらゆる詐欺を裁くためにその階級に序列されているからである。もし袖の下や個人的な好意、あるいはその他の理由で目こぼしするようであれば、あの不実な仕立て職人がその仕事においてそうなったと同じように、司法における詐欺師となり下がる。詐欺のせいで、この世の中、帽子といえ、水滴が首筋を伝わり

落ちてくるような役にたたない代物ばかりである。同じように靴についても、革製品や毛皮の上着についても、詐欺がまかり通っている。古い皮を新しい皮だと称して売るなど、その詐欺の手口は数え切れないくらいだが、それが詐欺だと知っているのは、あなたとあなたの主人である悪魔だけなのである。一体私があなたに詐欺の手口について、これ以上指南する必要がどこにあるだろうか。あなたはもう十分知っているはずなのだから。そのような詐欺師である者たちは皆、背反者に成り下がるのである。

第二番目の人々、つまり第二の合唱隊に属する人々は、鉄の道具で仕事をしたり、ものを作ったりするすべての人々のことである。彼らはすべて一つの合唱隊、一つの職務に属する。すなわち、金細工師、貨幣製造者やその他の金属細工師、大工あるいは鉄をはじめ、もろもろの金属を加工する鍛冶職人、あるいは石工、ろくろ工、さらには鉄の道具で仕事をするさまざまな人々のことである。これらの人たちは皆、一つの合唱隊に属し、世の中にいなくてはならない人たちであり、誰に対してもその職務を誠実に果たすべきである。彼らは日雇い賃金や出来高払いで仕事をするが、それはこの職種に大工と石工が多いからである。日雇い賃金で働く場合には、仕事の量を減らそうと手を抜いてはならない。また出来高払いの場合には、早く切り上げようとして仕事をないがしろにしてならない。そうすると、せっかく作ったものが一年あるいは二年そこらで崩れてしまうからである。それゆえ仕事は、誠実にこなさねばならない。それがあなたも自分のために行う仕事であるかのように。なぜなら、人があなたのために誠実に仕事をしてくれることを知るのは、あなたにとってもきつとうれしいはずだからである。それと同じように、隣人に対しても誠実に振舞うべきである。金細工師であれ、その他の鍛冶職人であれ、仕事は誠実にせねばならない。またある時、馬に蹄鉄を取り付けたとしよう。だが、それがもし鉄くず同然であったなら、馬は一マイルも進まないうちに、蹄鉄は折れてしまい、馬はびっこを引き、騎手はたちまち敵に捕まるか、あるいは落馬して命さえ落としかねない。それはまた、毎日馬を馬車や鋤の前に繋いで馬を駆り立てて仕事をする人にも当てはまるのである。そのときあなたは詐欺師となり、背反者と成り下がる。あなたも墮天使たちのもとに行かねばならないからである。というのも、天使は、ある一つの合唱隊から墮ちたのではなく、十あるすべての合唱隊から墮ちたのであり、それと同様に、人間も、何千人もの数で、地上の九つの合唱隊から墮ちるのである。なかでも第十番目の合唱隊⁷は、すべての者が墮ち、二度と戻ってくることはない。悔い改めの贖罪を授けることをわたくしは誰に対しても拒まない。だが人を殺せるような刃渡りの剣を作ったりしようものなら、彼らが正直であろうがなかろうが、あるいは品物を高く売ろうが安く売ろうが、そういったことにいっさい関係なく、その者の魂が救われることは決してない。

そしてさいころ職人⁸のあなた。あなたも背反者の一人である。あなたは自分の職種を決して実直に務めることはできない。それをやめるか、さもなければ天国から墮ちた悪魔たちと一緒に、地獄の底で永遠に灼かれるかのいずれかになる。その職業にとどまっている限りそうなるのである。どんな人であれ鉄の道具を用いて働く人は、その仕事を可能な限り誠実にこなさねばならない。というのも、どうすればそれをかなえることができるのかを一番よく知っているのは、彼ら自身だからである。あなたがたは、最上位の階級の合唱隊に服従せねばならない。なぜなら、その階級の人々、すなわち教会法と世俗法の法官たちは、服従の義務としてそう命じているからである。一方、修道士たちは、神ゆえに、またあなたの魂のゆえに、あなたがたがそうするように願うのである。なぜなら、彼らには命じる権限はないからである。

第三番目の人々とは、商いを営むすべての人々のことである。彼らは世の中になくなくてはならない人々である。商人たちは、よその王国で安く手に入るものをこちらに持ち込み、また海の向こうで安く手に入るものをこちらに運び込む。反対に、こちらで安いものをあちらに売り込むのである。そのようにして、ハンガリーから、フランスからわが国に品物を運んでくる。ある者は船で、ある者は荷車で。またある者は馬で、ある者は背負って、というようにして。商いの種類が何であれ、彼らは皆一つの合唱隊に属し、一つの職種を務めるのである。その職種は、最上位の合唱隊にはなくてはならない類いのものである。その人々のために、あなたがたは仕事で奉仕し、商いを誠実に行わねばならない。一方、上位の合唱隊の人々はそれをよく監督し、あなたがたが商いにおいて詐欺師にならないように注意するのである。それを目こぼしするようであれば、彼らは、あなたがたが商売においてそうであるように、司法において詐欺師となるのである。あなたがたは、正しい秤、正しい寸法、正しい目方を用いねばならない。そうすれば、神はあなたがたを正しい秤で測ってくださるのである。

品物は、ものさし、秤、枡、エルのものさしで売ちなさい。そうすれば、それはつねに正直で誠実な商いとなる。もし品物が秤も、ものさしも、枡も必要としない類いのものであるときには、正直につければそうなるであろう、とあなたが踏んでいる値打ち以上を吹聴してはならない。さもなければ、あなたは詐欺師となる。神があなたを正直な利益によってこれからもずっと養ってくださることは、神にお任せなさい。というのも、このことを神は自らのお言葉で約束なさったからである⁹。しかしあなたは、自分の品物がどれほどよいものであるかを、そして、どれほど買い手によって買い得であるのかを何度も誓うのである。すべての聖人たちにかけて十回以上あるいは三十回も偽りの誓いをし、それどころか神とそのすべての聖人たちの名にかけてさえそう誓うのだが、それも五シリングの品物のためになのである。そして、仮に神が買い手であったならば正直につけたであろう値よりも、六プフェニツヒも高く売りつけようとする。だがそのときにも誓ってこう言うのである。「もっと高い額を支払ってくれた人もいたのですよ」。しかしそれは嘘である。神や聖人たちに偽りの誓いをする回数だけ、あなたは十戒の一つを破っているのである。それは大罪¹⁰のうちの一つである。少額な商いのたびに、大罪を十回あるいはそれ以上犯すことになれば、一年が過ぎたころには、どれほど多くの罪になるのか、そしてそれが十年積み重なるとその数はどれほどになるか、よく考えてみるがよい。しかし、あなたはやがて何の罪を犯さなくてすむようになるであろう。なぜかという、多くの人々は、あなたが商売で誓えば誓うほど、嘘を見抜いてあなたからは何も買わなくなるからだ。つまり、誓いがもたらすものといえば、自らの魂の救いを永遠に失うことだけである。なぜなら、買い手にどれほど誓おうとも、その人は、えてしてあなたから何も買わずに帰ってしまうからである。

反対に、実直な商人から何かを買おうとするときには、あなたはどうしたらそれを値段より安く手に入れることができるかについて、ありとあらゆる知恵を絞り、買おうとしている品物の値段が十分安価であることを承知しているにもかかわらず、多くの嘘を並べ立てるのである。例えば、自分の使用人を先に店へ行かせて、自らは少したってから出かけて行き、自分が前もって売り手に伝えておいた値段を使用人に伝え、彼をしてそれをさらに値切らせるのである。すると売り手は困って、あなたにまた戻ってきて欲しい、と願う始末なのである。このようにして、彼をペテンにかけ、こう誓って言うのだ。「これはほんとうです。すべての聖人の名にかけてもいいですが、わたしと同じ値をつける人などおりませんよ」。だが本当は、他の買い手であれば、それよりもっと高い値を付けるであろうに。そのようにして、あなたは、神が序列づけられたキリスト教徒の背反者となり、同じく背反

者となった悪魔たちのもとに墮ち、神が天国の主である限り、彼らとともにずっと灼かれ続けるのである。物を売るときに、大罪を犯したくないのであれば、正当な理由があれば話は別だが、商品の質を落としたり、分量を減らしたりしてはならない。また、この値段で分量をこれ以上増やすつもりはない、と誓ってもいけない。もし仮に、分量をこれ以上増やすつもりはない、というのが本当だとしても、別の商人のところでは、「分量はこんなに多くはありませんよ」、などと請け負ってはならない。なぜならば、他の商人がどの程度の分量を売っているのか、実際のところよくは知らないからである。だが、あなたは多くの嘘を並べ立てる。ああ、神よ、お慈悲を与え給え。これほどまで嘘と不実がはびこるとは。あなたがたは、神があなたがたを哀れに思ってくださいることに深く感謝せねばならない。

だが、あなたはこう言うのである。「この値段では高すぎる。安いのを目当てにやってきたのだから」。そのような場合には、こう言うべきなのです。「私の言い値で売ってください。そのほうがありがたいのです。しかし、もしそのおつもりがないのであれば、値段についてはあなたのお望みどおりにいたします」。そして、嘘をつかないようにしたいのであれば、誓ってはならず、「あなたがわたしの商品を買ってくださるなくとも、どなたか別の方が買ってくださいますので」と言うべきなのであって、嘘をついたり、だましたりしてはならない。そのようにして商売で罪を犯さないように注意すべきである。そのような嘘や不正や詐欺は、数え切れないほど行われているからである。あなたがたは、商売において、嘘や詐欺がどのように行われているか一番よく知っているはずである。

聖なるキリスト教徒が地上の天国において第四番目に有する職種、つまり第四番目の合唱隊とは、食料品や飲み物を商う人々のことである。というのも、彼らはいなくてはならない人たちだからである。彼らはパンを焼き、肉を売り、ビールを醸造し、蜜酒をこしらえねばならない。さらにチーズ、卵、油、ニンシやその他のものを売りに出すのであり、この職種は、われわれが最も必要とするものの一つである。また彼らのある者は焼いたり、また別のある者は煮たりするのである。この仕事に対して誠実であることは、欠かすことのできない重大事である。なぜならば、他の職種の嘘は品物だけにとどまるが、この職種の嘘は、多くに人にとって、かけがえのない人の命に関わることだからである。例えば、だまして売った雌豚の古い肉や、日が経ちすぎて腐ってしまった肉のせいで、一人のあるいは十人も人の命が失われるようなことになれば、それはあなたの責任である。あるいは、その肉が屠殺のときに病気であったり、まだ十分成熟していなかったりしたときも同罪である。いずれにせよ、承知の上で、そのような肉を人々の間に流し、人々がその肉を、全能なる神にとって宝というべき純粋な魂を維持するために食べたとしたら、あなたは、われらの神が人のなかに隠し給うた高貴な宝を台無しにしているのである。同じことは魚を商う人についても言える。魚を水のなかで金曜日までとっておいたりすれば、魚は腐ってしまい、それを食べた人が死んだり、ひどい病にかかったりする。だまされた人が病気になったり、死んだりした場合には、あなたはそれらの人々すべてに対して責任を負う。また町の飲食店の主は、調理した食べ物を長いあいだとっておくため、それを食べた客が病気になったりする。これらはすべて不実と嘘のなせる業である。そのときあなたは、聖なるキリスト教徒の背反者となるのである。そのようにして多くの者たちは、腐った葡萄酒、腐ったビール、煮ていない蜜酒で人々をだましたり、正しい分量を売らなかったり、葡萄酒に水を混ぜて売ったりするのである。このように多くの不正がこの合唱隊には見られ、彼らの多くが背反者となるのである。また、例えば、多くの者が腐った小麦をパンに使ったりするために、それを食べた人がすぐに死んでしまうことがある。また塩辛いパンも健康によくない。たしかに書物には、食べ物のなかでパンに含

まれる塩ほど健康に悪く、また有害なものはない、とは書かれていないが、焼くときに塩が多ければ多いほど病気にかかりやすく、また死を招きかねないものなのである。

第五の職種に属し、第五の合唱隊に分類されている第五番目の人々とは、葡萄の木であれ、穀物であれ、そのために大地を耕す人々のことである。つまり、それはオリーブの木にせよ、果物のなる木にせよ、大地を耕す農民のことであり、一つの団体、一つの職種を構成する欠くことのできない人々である。なぜならば、彼らは領主に対しても、仲間内でも正直に生きねばならないからである。例えば、土地の境界を越えて耕作したものを収穫してはならない。また自分の家畜を他人の土地に放牧して、他人に被害を与えることをはじめ、それ以外の悪事を働いたり、ましてや仲間を領主に密告してはならない。ああ、裏切り者や嘘つきのなんと汚らわしいことか！クシ、そしてアヒトフェル¹¹よ、お前たちは、わたくしの目の前のどこに座っているのだ？アヒトフェルは、首を吊って死んだが、それと同じように、あなたも大いなる不実によって地獄の絞首台に吊るされることだろう。憎しみとねたみによって同じキリスト教徒を裏切ったのだから。あなたは、主人に対して正直でなければならない。だが、投げやりな態度で賦役に従事するため、やるべき仕事はまだたくさん残っているありさまである。そのため主人はあなたを叱り、罰を与えようとするが、するとあなたは別の主人へ鞍替えしてしまうのである。

だが一方で、時として領主にも責任がある。領主の方々。あなたがたは、ときどき貧しき民衆にひどい仕打ちを加える。もうこれ以上税を課すことができないにもかかわらず、さらに重い税を課するようなことをすれば、あなたがたは、ソロモン王の息子レハブアムと同じ目にあうことになるだろう¹²。レハブアムは民衆を過酷に扱ったので、民衆は彼のもとを去り、その後、レハブアムが彼らと会うことは二度となく、民衆はレハブアムの父の家臣たちに仕えることになった。というのも、ソロモン王は聡明で、民衆と賢く接することを心得ていたからである。しかし、その彼も民衆を苦しめることをしたのである。¹³そしてソロモンが亡くなると、民衆たちはその息子のレハブアムのところにやってきて、こう言ったのである。「王よ、お慈悲をお与えください。あなたの父君はわたしたちに大きなくびきを負わせました。それを軽くしてくださるのであれば、わたしたちは喜んであなたに仕え、あなたの僕となりましょう」。すると王は答えて言った。「三日後に来るがよい。どのように答えるべきか相談しておくので」。翌日、王は助言者たちに「わたしは民にどのように答えるべきであろうか」と尋ねた。助言者たちは一彼らは皆賢く、正しい助言をする人々であったので—こう答えた。「王よ、あなたは民にしかと約束し、やさしくしてあげるべきです。そうすれば、あなたは民の心を得て、彼らはあなたに従うはずです」。だがそこには愚かな助言者たちもいた。彼らは王と一緒に育てられた愚か者たちで、思慮分別もなくこう助言したのである。「王よ、あなたはあなたの民にこう言うべきです。『わたしの父がお前たちに重いくびきを負わせたのであれば、わたしはそれをもっと重くしよう。また、わたしの父が枝でお前たちを打ったのならば、わたしは鞭で打とう』と」。そして王は、それら愚かな助言者に従い、彼らの言ったとおりに民に告げたのである。すると彼らはこう言った。「王のことがこれほどまでに厳しいものであるのだから、その行いは、もっと厳しいものとなるだろう。わたしたちは、今後、ダビデ王の子孫を王に頂くことはやめよう」。そして彼らは王のもとを去り、その後王は、彼らに会うことは二度となく、愚か者に成り果てたのであった。領主の方々。あなたがたは、領民を苦しめるような助言をする助言者に従ってはならない。あなたがたにとって毎年の税がわずかであっても、その分安定した税収入のほうが好ましいはずである。あなたがたは、農地

を耕作することができないのであるから、領民をうまく扱って、すすんで奉仕するようにすべきである。また、農民たちもあなたがたに誠実に仕え、また互いに誠実に暮らすべきであり、自らの製品を誠実に売るべきである。

例えば、その幹が真ん中で曲がっている木材を売りに出すようなことをすれば、あなたは、空気を木材と称して売っているのである。また、まだ十分乾いていない干草の重量をごまかして車に積むことがあれば、それは誰にも利益をもたらすことはない。愚かな詐欺師よ。あなたはできのよい穀物を袋の上のほうに、できの悪い穀物を下のほうに入れるが、そのような詐欺と憎しみとねたみにより、せっかくの苦勞を台無しにしている。農民たちは、正直で誠実であれば、救いを得て天国に行くことができるであろうに。しかし、あなたは隣人がつらい目にあったり、被害にあったりするのがうれしいのである。そのため決して救われることはないであろう。

第六番目の人々、彼らは、神によって聖なるキリスト教徒において第六番目の合唱隊に序列されたのであるが、それは医術を扱うすべての人々のことである。彼らは欠くことのできない人々である。というのも、カンタベリーの聖アンセルムス¹⁴が次のように語っておられるからである。「神がわれわれを、苦しみも、あらゆる病も、あらゆる罪もない不死の身にお創りになり、蛇がアダムとイヴの二人をそそのかし、蛇によるこのそそのかしによって果実を食べたとき、二人は、それと同時に、蛇の中にあつたすべての毒と膿を飲み込んだのである。その毒によってわれわれは、体も魂も病にかかり、死すべき身となった。そしてそれは、神がわれわれを哀れんでくださるまで続いたのである」。そのとき神は、われわれを哀れんでくださり、蛇ゆえに背負うことになった病のそれぞれに対して、病んだ体を健康にするための薬を下さった。というのも神は、植物、薬草、種、特別な石、そして言葉に、そのことを理解する人にはわかる、病を癒す力をお授けになったからである。アダムはすべての植物の効用と味を知っていて、あらゆるものに名前をつけた。そのため今日でもなお立派な学者たちは、グラス¹⁵の尿を見てその人の健康状態と病の有無を知り、およそ治すことのできるものであれば、どんな病でも治せるすべを心得ているのである。ただ、この世の誰一人として治すことのできない、いくつかの病があるのと同じように、誰も贖うことのできない罪があるのである。なぜかというと、アダムがリンゴを食べて病を背負うことになったと同時に、その同じリンゴゆえに、魂も病を背負い込んだからである。つまり、あのリンゴが体にとって毒であり、それにより体に色々な病が生まれたのと同様に、魂にも様々な罪のゆえに様々な病が生まれたのである。われらの主は、そのすべての財産を売り払い、畑を買い入れたのだが、それは、そこに隠されている宝、すなわち汚れなきキリスト教徒の魂を手に入れるためであった。そして、神は受難によって聖なる十字架にかけられたが、それは、われわれの魂に薬を調合し、われわれの魂が健康になるためであった。その薬とは、七つ秘跡のことであり、神はそれらに大いなる力と栄光をお与えになったのである。秘跡を正しく受ける人は、決して地獄に墮ちることはない。

さあよく知るがよい。地上に暮らす天上の天使の合唱隊のごとき者たちよ。いかに全能の神がわれわれを愛してくださったかを。神は、辛き死を受け入れることによって、アダムが蛇の毒を食べたがゆえに生まれることとなった多くの悪しき罪という病から、魂の健康を取り戻してくださった。それゆえに、神が示してくださった恩寵と愛に対していつまでも感謝せねばならない。さらに神は、体の病に効用のある多くの高貴な植物とそれ以外の多くの物を与えてくださった。それについては立派な学者たちがよく知っており、それゆえに第六番目の合唱隊に序列されているのである。

医者はいなくてはならない人々であり、不誠実から身を守るべきである。なぜならば、医者の仕事は、まさに命と魂に関わるものだからである。医学を修めていない人は、医療に手を出してはならない。さもないと、運任せで治療をしたすべての人々に罪を犯すことになるからである。だが、医学を学んでいないにもかかわらず、医者しよう、外科についての知識しかないくせに、それをたよりに内科にも手を出し、人々に飲み薬を調合する者がいる。だが天国が好ましいのであるのなら、あなたはそのような人には用心せねばならない。なぜならば、その人の力量について確かなことを知らないし、知ることもできないからである。つまり、本物にも偽物にも出くわすというわけである。それというのも、立派な医者は忙しくてすべてに手が回らないからである。「とんでもありません、ベルトルト修道士様、わたしは四度うまくいきましたよ」。よく聞きなさい。それはただ運がよかっただけの話である。しかし、内科に手を出すことをやめようとしなければ、気高き合唱隊は、追放という警告を発して、あなたにその行為を中止するようにせまるであろう。あなたがやらなくとも、人殺しにはこと欠かないからである。外科に専念しなさい。そして、その分野の名医となるように心がけなさい。そのために、この世の中で見たり、触れたりすることのできるもの以外を扱ってはならない。すなわちそれは外傷、できもの、打ち身などであるが、これらであれば、別の名医のもとで外科を修業したことを条件に、その手当てをしてもよろしい。そうでないのに、けがをした人や、結石を取り除く必要のある人を治療した場合には、あなたはそのことの責任を負うことになる。患者が若者であれ、老人であれ、結石をうまく取り除くには、立派な技能が必要なのである。だがもし自らにゆだねられた職能や、神に定められた専門分野とは異なる医療行為を行うのであれば、聖なるキリスト教徒の背反者となり、詐欺師、人殺しに成り下がることになる。

以上が、全能の神がキリスト教徒を序列された九つの合唱隊である。つまり上位の三つと下位の六つの合唱隊で、下位の階級は、上位の階級に仕事を通して奉仕せねばならない。だが下位のあなたがたは、上位の彼らに対して無報酬で奉仕する責務があるわけではない。上位の者もあなたがたによってなされる奉仕に対して、十分に報いねばならないからである。というのも、あなたがたが彼らに対して服従すること、自分の仕事を誠実に行い、誠実さの点で正直な人々を欺くことなく、自らの分を正しくわきまえること、そして自分が所属する合唱隊を裏切らないこと、まさにこれらこそがあなたがたの役目なのである。それをルシフェルのように、不実によって裏切ったり冒涇したりしてはならない。もし誠実であったならば、ルシフェルは、天国の天使の群れと全能の神から背反することはなかったであろう。というのも、傲慢さのゆえに、神が大いなる名誉を授けられたことに感謝しなかったからである。なぜなら、神は彼のために大変ご苦労されたのだから。そして、聖ミカエルや他の天使たち同様に、従順であろうとしなかったのも、彼と天国の彼の仲間たちは追放されたのである。それと同じく、聖なるキリスト教徒の九つの合唱隊からもかなりの人々が、そして特に不従順で誠実さと正直さの背反者となったすべての者が追放されたのである。これら九つの合唱隊が無事でいられますように、全能なる神が、わたくしに力をお貸しくださいせんことを。なぜならば、第十番目の合唱隊のすべての者がわれわれのところから墮ち、背反者となったからである。それは、道化、バイオリン弾き、太鼓叩き、あるいはまた彼らが何という名で呼ばれようが、他人におべっかを使うことで生活の糧を得る人々のことである¹⁶。彼らは、第十番目の合唱隊に配置されたのであるから、その階級を守るべきであった。だが、その欺瞞のゆえにわれわれの背信者となったのである。というのも、そういった人たちは、相手が聞いている間は、これ以上ないほどよいことばかりを言うのだが、いったん

相手が背を向けると、悪口の限りを尽くし、神やこの世の人々にとって立派な人と思われる多くの人々をけなし、神やこの世の人々にとってその暮らしぶりが有害と思われる多くの人々をほめそやすからである。さらに、その人生のすべてを罪と不名誉に向け、いかなる罪も不名誉も恥じることがないからである。その仲間の一人であるあなたは、悪魔さえ口にするのをはばかりなことを語り、悪魔が流し込むすべてのことばを、再び口から吐き出すのである。ああ、嘆かわしや、あなたが洗礼を受けたとは。そして、その洗礼とキリスト教徒であることを否定するとは。あなたに与えられる報酬は、罪を伴うものだ。なぜなら、あなたに報酬を与える人々は、最後の審判の日に神に対してその弁明をせねばならないからである。つまり、彼らは報酬とともに罪も与えているので、あなたは、報酬と同時に、罪および不名誉をも受け取っているからである。もしそういった者がここにいるのならば、立ち去りなさい。あなたは、その陰険さと強欲さのゆえにわれわれから背反し、そのためあなたの仲間たち、つまり背反した悪魔たちのもとに行かねばならない。あなたは悪魔にちなんで「冒流者」(Lasterbalc)と、またあなたの仲間は「恥さらし」(Schandolf)と呼ばれるのである。また別の仲間は「いばら」(Hagedorn)とか、「地獄の業火」(Hellefiwer)と、さらには「雹」(Hagelstein)などとも呼ばれるのである。あなたは、仲間である背反した悪魔たちと同じくらいたくさん恥ずべき名前を持っているのである。

この十番目の合唱隊以外の合唱隊に属する者たちよ、もし背反しているのであれば、心から悔い改めなさい。自らの罪の重さに応じて、偽りのない懺悔と改悛に務め、真の悔い改めによりわれらの主の恩寵にあずかりなさい。心優しき神は、恩寵を与えてくださるほどに慈悲深い方です。神は、あなたがたを自らの苦しみとひきかえに救い出し、キリスト教徒の魂という宝を神は何にもまして愛してくださったのです。あなたがたが自らを哀れに思うのであれば、神もまたあなたがたを哀れに思うてくださるでしょう。そして、死ぬときはまずは魂を、そして最後の審判のときには体と魂というように、やさしき心であなたがたを受け入れてくださることでしょう。神がわれわれにお力をお貸しくださいますように。アーメン。

【訳注】

- 1 Röcke (1983:202) の注2は、『聖書』の中で、キリスト教徒が畑に例えられている箇所はないと述べている。ただし『マタイによる福音書』13:24 (佐藤研訳)にはこうある。「天の王国は、自分の畑に良い種を蒔く人と同じであると言える」。
- 2 ルシフェルは、『イザヤ書』14:12 (新共同訳)に、「ああ、お前は天から墮ちた明けの明星、曙の子よ」とある。ルシフェルは、キリスト教では悪魔・墮天使を意味し、墮天使の長であるサタンの別名でもある。
- 3 ベルトルトの『第23番目の説教』、Pfeiffer 版363項を参照。
- 4 「第一番目の人々」とは下位の六階級の第一番目のことなので、上から数えていけば、「第四階級」に相当する。ただし、冒頭の「解説」でも指摘したように、これ以降述べられる下位の職業集団においては、服従と奉仕という上下関係ではなく、いわば横並びの関係になっている。
- 5 「エレ」とは、ドイツの昔の尺度で約50センチの長さである。
- 6 Röcke (1983:207) は、注22で、トマス・アクィナスに準拠しながら、まず三つの不誠実を挙げる。第一は、品物が偽物であること、第二は分量に関する不誠実、第三が品質に関する不誠実である。

これに加えて、ここでベルトルトが第四の不誠実と考えているのは、粗悪品を価値以上の値段で売りつけるという不誠実である。

- 7 「第十番目の合唱隊」とは、「解説」にも記したように、地上における道化・楽師などの職業を指す。これについては、本説教の最終章で詳しく論じられている。
- 8 さいころ職人の罪の重さについて、ベルトルトは第二説教「五つのタラントンについて」(Pfeiffer版15項)でこう警告している。「賭博の罪により、[...]何千人もの人の魂が地獄に墮ちるのである。賭博からは殺人、窃盗、嫉妬、怒り、憎悪が生まれ、神への奉仕がおろそかになる。[...]もしこの仕事をやめなければ、あなたは天国を諦めねばならない」。なお第二説教については、香田芳樹訳およびその解説を参照のこと。
- 9 『マタイによる福音書』6:25-7(佐藤研訳)にはこうある。「空の鳥たちをよく見よ。蒔かず、刈らず、倉に納めることもしない。しかし天のあなたたちの父は彼らを養って下さる。あなたたちは彼らよりもなお優れた者たちではないか。あなたたちのうちの誰かが、思い煩ったからといって、自分の背丈を一尺ほども伸ばせるであろうか」。
- 10 この箇所ですられる「偽証への戒め」は「十戒」の一つではあるが、「七つの大罪」(傲慢、貪欲、淫乱、嫉妬、大食、憤怒、怠惰)には含まれていない。
- 11 クシという人物については、『旧約聖書』の『エレミア書』36:14ならびに『ゼファニヤ書』1:1の二箇所において、その系譜が語られるのみである。またアヒトフェルは、ダビデ王の助言者であったが、王を裏切り、その息子アブサロムに加担して反乱を企てた。が、自らの案が取り上げられず、反乱が失敗に終わったことを予感し、首をくくって自殺した(『サムエル記下』16:15-17:23)。
- 12 ここで述べられる王レハブアムの物語は、『列王記上』12:1-15にでてくる。
- 13 例えば、ベルトルトの説教にあるように、ソロモンが重税と賦役を民衆に課したこと。またRöcke(1983:212)の注37によると、ユダ族出身のソロモンが自分の出身部族を優遇したため、他部族との対立や反乱を誘発させたことや、さらにユダヤ教以外の宗教を黙認したため混乱を招いたこと、などが挙げられるという。
- 14 アンセルムス(1033~1109)。イタリア出身で、英国のカンタベリー大司教。スコラ哲学の父と呼ばれる。罪にまみれた人間は、神の恩寵なくしては救われないことを強調した。
- 15 「グラス」とは、検尿グラスのこと。尿検査の目的は、尿の沈澱、混濁、色などによって体液のバランスを調べ、健康状態や病気を診断することにある。
- 16 中世において、道化、バイオリン弾き、太鼓叩きといった楽師は賤民視された。彼らは、定住しない、ツンフトを形成しない、あるいは異教的で不気味なものとみなされた自然の音を操る、などの理由で、ベルトルトが述べているような九つの合唱隊のいずれにも属さない、市民社会から転落した人々と考えられていた。

【テキスト】

Bertold von Regensburg. Vollständige Ausgabe seiner Predigten mit Anmerkungen von Franz Pfeiffer. Mit einem Vorwort von Kurt Ruh. 2 Bände. Walter de Gruyter & Co · Berlin 1965.

Bertold von Regensburg. Vier Predigten. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Übersetzt und herausgegeben von Werner Röcke. Philipp Reclam jun. Stuttgart 1983.

【参考文献】

- Eggers, Hans (1986): Deutsche Sprachgeschichte. Band 1 Das Althochdeutsche und das Mittelhochdeutsche. Rowohlt Taschenbuch Verlag, Reinbek bei Hamburg.
- Banta, Frank G. (2001): Bertold von Regensburg. In: Deutschsprachige Literatur des Mittelalters. Studienauswahl aus dem ‚Verfasserlexikon‘ (Band 1–10), besorgt von Burghart Wachinger. Walter de Gruyter · Berlin · York, 17–23.
- 『キリスト教用語独和小辞典』川口洋編著、同学社、1996年。
- 『新約聖書 I マルコによる福音書 マタイによる福音書』佐藤研訳、岩波書店、1995年。
- 『聖書』新共同訳、共同訳聖書実行委員会、財団法人日本聖書教会、1987年。
- 『レーゲンスブルクのベルトルト 説教二–五つのタラントンについて』香田芳樹訳、上智大学中世思想研究所編訳／監修『中世思想原典集成16–ドイツ神秘思想–』平凡社、2001年、107項–135項。